



人生の明暗を分かつもの

(一)

やまばと機関紙は本年四月から隔月発行になりましたが、本紙は六月号で二〇二〇年度のビッグニュース特集号になっています。

どのページを見ても、「新型コロナウイルス(Covid19)」の文字が目に入り、新型コロナウイルスの登場によっていかに大きな影響を受けたかがわかることでしょう。

一昨年の今頃は、こんなことになるとは夢にも思わず、自由に外出したり、親しい人たちを訪問したりしていました。しかし、昨年二月、日本にもコロナ感染者がでた頃から、あれよあれよという間に感染が拡がり、施設も病院も、外来者出入り禁止、面会禁止の措置をとらざるを得なくなりました。

ワクチンが開発されホッとしたりかと思ふと変異株が登場したり、感染が下火になったかに見えても再び拡大したり、この新型コロナウイルスはかなり強力で厄介な存在に思われます。しかし、

発行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県 岡部 2151 番地 2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
郵便振替 00800 - 6 - 14641
頒価年額 600 円(千共) 1部 100 円(千共)
(送料・消費税込み)
寄付金の一部に購読料を含む場合があります。



わたしたちは一人で闘っているわけではなく、全世界の人たちとともに闘っており、その上、世界のトップレベルの優秀な頭脳を持ち主たちがコロナ感染防止方法や治療薬開発のため知恵を尽くしているわけですから、事態は必ず好転することでしょう。

感染予防を意識する日々の中で、Web面会や、窓越し対面、Web研修、Web会議といった方法を活用できるようにしたのも、今後のために良いだろうと思います。

コロナ禍により職を失ったり、食物にも事欠く状況に置かれた人たちのことは心配ですが、日本には、「禍も三年たてば用に立つ」ということわざがあるとのこと。コロナ禍の中で身に着けたこと、見出したこと、工夫するようになったこと等は、きつと今後に役立つに違いありません。

ところで、五月に入ってから、当牧之原市でも、市内の福祉施設でワクチン接種が始まりました。(実は、当法人の施設は、島田市、吉田町にもありますが、接種状況は地域で異なり、島田市、吉田町ではまだ始まっていません。)

細かいいえば、牧之原市内の障害者支援施設やグループホームで暮らす利用者、支援者、そして医療従事者、それから、市内の特別養護老人ホームや養護老人ホームで暮らす高齢者と介護員、医療従事者がワクチン接種の対象者です。同じ施設で働いていても、六十五歳未満の人はまだ接種を受けることができません。理由はいろいろあるのですが、施設関係者は全員、施設でワクチン接種を優先的に受けることができればよいのにと思われます。

(二)

五月と言えば、一日(土曜日)に、竜巻と思われる突風が牧之原市を襲い、電柱や家屋が倒壊したほか、霜を防ぐファンやビートルハウスなど農業施設にも大きな被害が出ました。被災したところは市内のあちこち(布引

原とか須々木、坂部など)だったので、全国規模のニュースでは一括して「牧之原市に竜巻の被害」と幾度も報道されたため、多くの方たちから問い合わせをいただきました。ご心配をおかけしましたが、幸いなことに、当法人の施設には被害はなく、我が家も無事でした。

数年前には、我が家も突風で屋根の一部を損壊されたことがあります。が、今回は、比較的近所の家の二つが被害にあつたようです。なぜこの家に突風が襲い、この家は襲わないのかといったことは、今の科学では解明できないことなので、理由が分からぬまま受け入れざるを得ませんが、どんなことが起きても、打ちのめされず、前を向いて歩くことは可能だろうと思えます。この一年もいろいろなことが起きるでしょうが、次のような言葉に励まされながら、明るく歩んでいきたいと思えます。

◆「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを知っている」(新約聖書ローマ書8:28)

◆「人生の明暗を分かつものは、運・不運ではなく、心の持ちようだ。苦しい時にこそ、明るい希望を失ってはならない。また、成功した時こそ、感謝の心、謙虚な心を忘れてはならない。」(稲盛和夫。実業家で、現在は、経営者育成に力を注いでいる。)

〈理事長〉長沢道子

法人全体

★牧ノ原やまばと学園創立50周年記念式典・祝賀会の中止

記念式典・祝賀会のため会場を予約するなど、いろいろ計画を立てましたが、新型コロナの拡がりのため、ほとんどの計画を中止。「記念誌の発行」のみ具体化しました。本冊は「それでも一緒に歩いていく」、別冊は「わたしたちの活動」。別冊の発行が遅れ、贈呈などは次年度にずれこみました。

★リーダー育成をめざす主任等研修

主任等に対する初めての集中的、継続的研修。三密を避け、リモート形式で、7月～12月、毎月、2回に分けて実施。講師は、NPO法人「ホットスペース中原」代表の佐々木炎氏。

★EPA実習生の来日延期

EPA(経済連携協定)に基づくインドネシアからの介護福祉士候補者・女性2名が、6月に来日予定でしたが、コロナの影響で、半年延期に。その間、1名はご家庭の事情で辞退され、1名のみが12月に来日し大阪で研修中。2021年6月から聖ルカホームに就業予定です。



★やまばと機関紙の「毎月発行」と「第三种郵便による発送」は、共に年度末で終了。

2021年度からの機関紙は、偶数月の隔月発行となり、普通郵便や宅急便での発送とさせていただきます。また、やまばとホームページでの機関紙閲覧も開始しました。



★本部事務所のイメージチェンジ

新型コロナ感染症対策として、玄関での靴の消毒、検温、手指消毒、行動チェックを実施。事務所内の机も前向きにそろえ、スタッフとスタッフの間に飛沫防止ボードを設置しました。

みぎわ(グループホーム) ★皆で一緒に夕涼み

8月の夕食後、敷地内で利用者さんと職員とで花火。ご利用者は自分好みの花火を選び、皆で花火を楽しみました。花火のあとは、大好きなアイスを食べ、暑さを忘れました。



★おやつ作り

今回おやつとしてリクエストされたのはクレープ。利用者さんたちは自分が食べたいフルーツをカットし、生地の上のにせ、クリームも自分達で絞りました。クルクル巻いて完成です!! 皆、自分好みの形を作り、お互いに見せ合いながら頬張りました。

★みぎわのクリスマス

毎年、皆でショートケーキと紅茶を頂きます。そして、今年1年を振り返り、楽しかった事など和気あいあいと話し合いました。新型コロナで窮屈な1年でしたが、今回のクリスマスも良い振り返りになりました。



島田市立養護老人ホーム ぎんもくせい

★新型コロナ感染予防に明け暮れた一年でした

行事やクラブ活動は、縮小や不開催となり、通常通りに出来たものではありませんでした。こちらから出かける研修や、外出も同様で、人との交流の少ない年度となりました。一日も早い終息を願うばかりです。

★「お仕事有難う会」を開催(3/25)、ご協力に感謝!

日頃、施設のために協力して下さるご利用者8名に、ハンバーガーランチをご用意。お風呂掃除をして下さる方、食後の片付けや清掃を手伝って下さる方、ウェス切りや新聞紙ごみ袋を作って下さる方などに、感謝の会を設けました。

★「クリスマス会」、パンケーキを皆で作りました(12/17)

一緒にクリスマスケーキを焼き、クリームや果物を飾りつけました。自分たちで作ると、不思議と一体感と満足感があっていいものです。おいしくもあります。



ケアセンター野ばら

★10月17日、秋まつり

3施設(垂穂寮・野ばら・みぎわホーム)で秋祭りを開催。3密を避けるためそれぞれ単独でお祝いしましたが、キッチンカーは合同で呼びました(でぶ屋・ピザ屋・クレープ屋・フレッシュジュース屋)。バラエティに富んだ美味しいお食事、感謝感謝!午後は、職員手作りの、手品・劇・音楽セッションで楽しみました。久しぶりの行事で、ワクワク感が続く一日に。



★1月25日、上城咲南さんの20才のお祝い

2年前、吉田特別支援学校を卒業された咲南さんは、2月7日に20才になられます。散歩が大好き、最近では職員と手を繋いで棟内をスキップしたりも。スライドショーなどの写真も好きで、塚本雅道さんと隣同士に座り、テレビ前でじっと観ることもあります。お祝い会当日はお母様の綾野様もお越し下さり、ご一緒に記念撮影をしたり、咲南さんの好きなラーメン体操を行ったりしました。



★11月5日、クッキング

プリン皆さんの大好きなおやつ。そのプリンがフルーツやホイップで飾り付けられて出来上がっていくと、嬉しそうな笑顔いっぱい。紙皿がかわいくて、それも楽しめました。



★夏の水遊び・プール

ここ数年の夏の暑さは尋常ではありません。そんな中、少しだけ外気浴をした後、たらいに水を張って足を浸し、ジョーロやボールなどで楽しく遊びました。野ばらにはシャボン玉の装置があり、シャボン玉を飛ばすとさらに清涼感がアップします。あまりに暑さが厳しいときは散歩も中止し、室内で曲をかけてウォーキング。『365歩のマーチ』、トトロの『さんぽ』に合わせて軽快にホールを歩きました。ごちそうを食べる会?今年はハンバーガーを食べて満腹。反省としては、室内活動がやや多かったとの意見がありました。



ワークセンターやまばと

★10月に山梨県へ日帰り旅行

コロナへの懸念もありましたが、作業を一生懸命頑張っている利用者の方に少しでもリフレッシュして頂きたくて実施。ソーシャルディスタンスを保ちつつ、楽しい時になりました。



★今までありがとう、そして新天地へ

2020年度をもって、大石美好さんが高齢者サービスへ移行。長い間やまばとで作業をし、笑顔と安らぎを皆さんに分けてくださった美好さん。新天地でもその微笑ましい顔で頑張ってください。



★10月に突然のお別れ

短い間の交わりでしたが、大石博一さん急逝。作業を一生懸命頑張っている姿が思い出されます。とても残念で、胸が痛みます。今までありがとうございました。



ワークセンターあさがお

★2020年6月、念願の広い新施設が完成、引越し&お祝い会

島田市から長年お借りしていた建物を返却し、木の香りも清々しい新施設で事業を継続することができました。利用者も職員も広くて新しい施設に大満足。



★9月末に毎年恒例のバス旅行を日帰りで行った

平日に3密を避けて掛川方面へ出掛け、美味しい料理とおいしい空気を満喫しました。パート職員も初めて参加ができ、親睦を深めることができました。



★過去最高額の受注売上

コロナの影響で工賃が下がる事業所が多い中、今年度も過去最高額の受注売上でした。利用者も職員も力と知恵を出し合って作業を進めることができました。定期的に訪れて、作業の手伝いをしてくださるボランティアさんたちに、感謝。



<番外>

約40年働いてくれた市川秀典さんが生活介護事業所へ移籍。8月には盛大に慰労会。名残は尽きませんが新しい生活にエールをおくりお別れした。長い間の作業お疲れ様!!!

ケアセンターさざんか

★笑顔の素敵な増田和雄さん、さようなら、ありがとう!

4月、やまばと成人寮時代から共に暮らした増田和雄さんが病気で逝去されました。いつもステキな笑顔を見せて下さり、ご利用者さんも職員も癒しの時間をいただきました。長い間の思い出、ありがとうございました。



★5月と10月、2回もお寿司を食べたよ

コロナで外出が中止となる中、「沼津魚河岸鮭^{うおがしずし}」さんが来訪。おいしいお寿司を振舞って下さいました。10月には、鳥田市にある「すし辰」さんが来て下さり、美味しいお寿司を皆でいただきました。



★いつもと違うクリスマス会

コロナの関係で例年お越し頂いている保護者様やお客様を招くことができず、今年はやや違った雰囲気の中、クリスマスを開催。クリスマスにちなんだ紙芝居やゲーム、ウェルビーさんの美味しいクリスマスメニューをいただき、和やかに過ごしました。



ケアセンターマーガレット

★国際色豊かな仲間に

11月、12月に新しい仲間を迎え、国際色豊かになりました。職員もときどき片言の英語を使っています。



★屋外デッキにプール

外出自粛の中、建物内に何か楽しめる物はないかと知恵を絞り、完成したのが「マーガレットプール」。屋外デッキにプール、目隠しの葦簾にはスプリンクラーも付け、涼をとり、大満足の夏となりました。



★壁面飾り

利用者さんが作る四季折々の壁面飾りを引き立てるのは、マーガレット自慢の木目壁。この度、照明が増え、支援室がとても明るくなりました。

<番外>

増田今日子施設長が予期せぬ病を得て10月1日より長期入院に。とても残念です。1月からは河本施設長がさくらと兼務。

地域活動支援センターレタスクラブ

★オリーブ

4月から月に1回オリーブの草むしりを行いました。10月には実摘みのお手伝い。たくさんのおリーブの実からごくわずかのオリーブオイルしかできないことも体験しましたが、おいしいオイルに、うれしくなりました。



★自然のつながり

5月よりマーガレット横の空き地を借りて畑を耕し、野菜を作っています。その作物を素材にしてランチ作り。食と自然のつながりを身近に感じました。

★9月は箱庭づくり

心理療法で使う箱庭を作り、皆で色々な作品を作りました。自分の深層心理と向き合う体験をしました。



★10月は疑似体験

吉田町社協から障害疑似体験のセットを借り、身体不自由、視覚障害、車椅子の体験。「こんなにも大変なんだ」と、自分たちとは違う障害に気づかされました。



★12月はオペレッタ発表

あつまリーナ合同クリスマス会において、白雪姫のオペレッタを披露。音楽やセリフはユーチューブを利用し、緊張することなくのびのびと表現することができました。

ワークセンターさくら

★施設長と職員2名、人事異動

4月からさくらに、河本施設長、植野主任、秋田事務主任の3人が来てくれました。女性職員が増え、より明るい雰囲気になっています。

★7月と10月、年に2回の室内運動会

外出が出来ないので、交流ホールで運動会。赤チームと白チームに分かれ、パン食い競争等を行いました。

★4月、作業室と食堂の模様替え

部屋のテーブルを向かい合わせにし、みんなで作業している雰囲気に変えました。1月は食堂。コロナの関係で、皆同じテレビの方向を向いて食事をとるようにしました。



ワークセンターカサブランカ

★今年もAランク評価

容器リサイクル法に基づくPETボトルの品質検査において、今年もAランクの評価を取得。今後も限られた資源を大切にすることを心掛け、リサイクル作業を頑張ります。

★ステイホームの影響で作業量増加

2020年度は市民の皆さんが家にいることが多かったためか、トレイや牛乳パック、ペットボトルや陶磁器、ビン等の資源ごみが多く出て、作業に追われました。が、作業員たちも職員も、頑張りました。



★就労支援のための努力

10月に利用者さん1名の就労支援。結果的には一般就労に結びつきませんでした。が、今後も就労可能な方は一般就労を目指していきます。インフルエンザ等の感染症もなく、元気に作業に取り組むことができました。

<番外>管理者の移動

2021年3月末をもって施設長の鬼頭淳さんが垂穂寮へ移り、垂穂寮から澤渡繁さんが就任します。鬼頭施設長、いろいろとありがとうございました。



グレイス

★大きくなった木の伐採

グレイス玄関正面にモミの木?のような大きな木がありました。開設から10年、すくすくと成長したこの木は、気づけば電線に届くまでに。ちょうど台風シーズン直前だったので、停電の原因になってはいけなと自力伐採を試みましたが、思ったより高く伸びていて、断念。プロの方にクレーン車を導入してもらい、木の中心の幹を切って円錐形に整えていただきました。少々寂しい姿になりましたが、春にはきれいな緑の円錐形になってご利用者さんを楽しませてくれるはずで。

★矢崎部品様による力強い支援

新型コロナのため、ほとんどのボランティア活動は休止。そんな中、矢崎部品様が「人材育成・地域貢献」ということで、草取り等、環境整備の手伝いに。若い職員さん達は屋外で草取り。その他、20名ほどの職員さんは会社で、清拭用の清拭縫いをして施設まで届けてくださったのです。ご家族の面会も制限している状況下で新しいボランティアの方々との御縁をいただけたことに感謝です。このご縁を大切にしていきたいと願っています。

★コロナ禍であっても例年の餅つき実施

毎年、地域の皆さんたちの手をお借りして「餅つき」を行い、その時は、杵も、臼も、もち米も、地域の皆さんが用意してくださるのですが、コロナの中では・とあきらめていた中、地域の皆様が「一緒に餅つきはできないけれど」と「もち米」を届けてくださいました。早速餅つきを演出。臼の中のお餅は綿でしたが、職員が各ユニットを回って餅つきを演じ、その後は、「つきたてのお餅の入ったお汁粉」を美味しくいただきました。地域の皆さん、本当にありがとうございました。



診療所

★赤堀先生が、垂穂寮、やまばと希望寮の嘱託医も兼務に。

やまばと診療所管理医の赤堀由砂先生に、垂穂寮とやまばと希望寮の嘱託医も兼務していただきました。以前からの管理医の田代修司先生との2名体制となります。感謝。



わかば・もくれん

もくれん

★住人の増田さん、長い間の交わり、ありがとう!

増田さんは、グループホームもくれんが始まったころからの住人。とても人懐っこい性格で、時々職員をからかっては満面の笑みを見せてくれました。在宅酸素を利用し、訪問看護を利用しながら、もくれんでの生活を続けていましたが、昨年4月13日急変し、14日に逝去されました。



★さんまBBQ(バーベキュー)に焼き芋デザート

もくれんの畑で世話人さんが愛情込めて作ってくれたさつま芋が、高杉施設長監督のもと、「焼き芋」となり、今回のさんまBBQのデザートに。利用者の皆さん「美味しい!」とペロリと完食。利用者さんよりも職員の方が喜んでいました!(内緒)

★住人のIさん、希望寮体験利用

今月より利用者Iさんが、毎週金曜日に希望寮の日中活動を利用することに。希望寮職員がIさんの対応している間は、もくれん職員が希望寮内で支援を行い、施設交換実習も兼ねました。Iさんは個別支援で希望寮職員と密に関わるので、うれしそうでした。

わかば

★いつもの遠足、水ヶ谷公園まで。

健脚組は、だいだらぼっち公園を経て水ヶ谷公園まで5km近い距離をペースよく歩行。サッカーボールを持参し、公園では利用者と職員全員でサッカーを。利用者Aさんも歩行器を巧みに操り、サッカーボールを追いかけていました。



★カモシカ、今年も出現

わかばの周りは山に囲まれた自然豊かなところ。昨年より、天然記念物のカモシカが2頭時々山から降りてくるのを見ましたが、今年はなんと3頭!しかも子どものカモシカもいたのです!

★コロナウイルス大流行で、帰宅できなくて残念

わかばの利用者さんは、帰宅するのを楽しみにしている方が多いのですが、コロナのため、しばらく帰宅出来ない状態が続いています。帰宅に代わる余暇支援に力を入れていく予定ですが、「1日も早くコロナウイルスが終息しますように!」(ご利用者と職員の祈り)。

ワークセンターふれあい

★沼津魚がし鯨の訪問ボランティア(6月)

社長さん自らキッチンカーを運転して到着。板前さんたちは、大きなネタのマグロやエビやイクラ等を握ってくださいました。厨房の見学もすることができ、キッチンカーの前で写真撮影をバッチリ!みんな、大満足の昼食会でした。お礼に、利用者の手作り製品を贈呈。また来てください!!



★パラリンピックの競技にもなっているボッチャの大会開催(9月)

初めての競技でしたが、お昼休みを利用して練習を重ね、驚くほど上手に。グループ対抗戦は大盛り上がり。景品には、信玄餅・うなぎパイ・えびせんべい等が用意され、皆大喜び。



★天王山公園の草刈り

緊急事態宣言の発令で、企業からの下請け作業が減少する中、市より受託した天王山公園の草刈り作業に行く機会が増えました。年三回の大規模な草刈りにも、保護者会購入の自動芝刈り機が威力を発揮。利用者、保護者、職員みんなが汗を流し、公園の環境整備に取り組みました。

居宅介護支援事業所 シャローム

★感染防止に努めながら活動

新型コロナウイルス感染症に係る事務連絡が厚労省から次々発出される中、情報の収集や対応に追われました。オンライン研修への参加、感染防止を踏まえたサービス調整、家庭訪問、相談や助言等に追われた1年でした。

★社会貢献の一環として坂部の地域サロンに参加

ソーシャルディスタンスを保ちながら、こちらの介護相談日や介護保険サービスについてお知らせ。



ワークセンターコスモス

★創立40年のお祝い

1980年、島田市手をつなぐ親の会により、島田市に初めて開設された小規模作業所がコスモスです。利用者が増え、「あさがお」や「なのはな」へと進展しました。お祝いは内輪で行い、刺繍文字入りのボールペンを作成しました。



★園芸教室、開催!

コスモスは園芸用品の梱包・納品の仕事をしていますが、ある日、ご利用者の一人が「自分たちも花を植えてみたい」と発言。これがきっかけで、仕事先の企業にお願いし、園芸教室を開催。花や植物の名前を教えてもらい、自分たちで鉢に土を入れ、季節の花を自分の好きなように並べ、自分だけの寄せ植えを完成。ご利用者も家族も大喜びでした。

★静岡県立島田高等学校の先生・生徒さんと長年の交流

毎年冬には、吹奏楽部による演奏、家庭部の手作りスイーツ、生徒会によるレクリエーションなど、にぎやかな交流がありました。が、今年はコロナでとても無理だろうと諦めていました。しかし、何と、家庭部の生徒の皆さんが、手作りストラップを届けて下さったのです! あたたかい心と、かわいいストラップに、コスモスの全員が励まされました。感謝します!



<番外>

★コスモスに38年間通った濱口律子さん、事務スタッフとして長く働いて下さった大池真由美さん、そして、皆を楽しませてくださった高松祐輔施設長さんと、お別れすることに。——みんな、ありがとう、お元気で活躍して下さい。



★制約の多い日々の中でも、面白い変装マスクを発明(?)

不織布マスクを飾ると変装マスクに変身! マスクハロウィーンの始まり!



ワークセンター希望の家

★コロナ禍で作業量の減少

緊急事態宣言が発令されてから、利用者が行う下請け作業の量も減りました。しかし、影響を受けない作業もあった為、皆で協力し合い、乗り切りました。



★ボッチャ大会開催(11月)

パラリンピックの競技にもなっているボッチャ大会を開催。皆初めての競技でしたが、独自のルールを作り、グループ対抗戦としたため大変に盛り上がりました。昼食は、ハンバーグやオムライス等。景品には、長崎カステラ・東京ばな奈・こっこ等、各地のお土産があり、大喜びでした。



★コロナの中での楽しみ会(3月)

外出行事や多数の集いが中止となったため、利用者のお楽しみのために、昼食にお店のテイクアウトメニューをとる機会を増やしました。サンドイッチ、カレーライス、ハンバーグ、にぎり寿司、ナポリタン、いなり寿司等です。3月には、皆で、いちごトライフルを作りインスタ映えする作品が出来上がりました。

<番外>

希望の家に35年間通所された鈴木文男さんが、9月で退所。また、23年間通所された鈴木博さんが1月末で退所されました。いろいろな思い出を残してくれて、ありがとう!感謝いたします。



牧之原市地域包括支援センター オリーブ

★Web研修・Web会議が主流に

コロナ禍の中で、Web研修やWeb会議が主流になりました。おかげで、プロジェクターやマイクなどいろいろな機械がそろいました。



★コロナ禍の中、飲食店への支援?

毎週金曜日に飲食店へお弁当を注文するようになりました。現在も継続中です。

★5月27日から新しいシステムへ更新

包括のシステムが代わり、右往左往した1年でした。



生活支援センター やまばと

★他事業所の支援者も招いて事例検討会

定期的に行っている事例検討会、数年前からは法人内外からスーパーバイザーをお呼びし、助言を頂いてきました。今年度は、よりよい支援に繋げるために、他事業所の支援者も招いて、スーパーバイザーに悩みなども聞いてもらい、支援方法や支援の視点について学びを深めました。



★「地域でひとり暮らしをしたい」の願いに応えて

グループホームで生活していた兄弟二人が、それぞれ「一人暮らしをしたい」と希望されたのが約2年前。その思いを受け、世話人や福祉課など関係者がメンバーになって「地域移行プロジェクトチーム」を発足。以来、一人暮らしの厳しさを伝えたら、泣かれたり、支援者間で準備の詰めが甘い所を何度も確認したり等、ご本人、支援者共々大変なこともありました。親切な不動産屋を通して良い物件も見つかり、引越しの日を迎えました。社会人としての出発に戸惑いながらも、ご本人が「新しい生活が楽しみ」と笑顔で言われた時には、支援者としても本当に達成感を感じました。

★リモート会議開催

コロナ禍により、法人内および他機関とリモート会議の機会を多く持つことができました。当初は声を出すことにも緊張を覚えましたが、少しずつ慣れてきて、効率の面でよいこと見出しました。

ケアセンターかたくりの花

★夢の一人暮らし

K・Tさんは車椅子生活ですが、長年「東京で一人暮らしをしたい」という夢を持っていました。両親を説得し、大勢の人達からサポートされて、夢が具体化。7月30日、胸はずませて東京へと出発しました。



★12月11日、クリスマスで音楽発表

コロナ禍の中、いつものようなクリスマスは実施出来ませんでしたが、恒例の音楽発表は今回も実施。家族や来賓者は居ませんでしたが、一年の総まとめとして素晴らしい演奏を行いました。自信と達成感を得たご利用者の笑顔は最高でした。



★1月15日、成人を祝う会

自粛ムードが広がっていましたが、かたくりの花ではソーシャルディスタンスを保ち、S・Aさんの成人を祝う会を開催。「二十歳の特別な日」、ご本人が晴れ着の袖に手を通すと表情が変わってきました。お母様からのレターメッセージには愛があふれ、心が温くなりました。



相寿園

★利用者職員だけの「納涼祭」(7月10日)

いつもは大勢のお客様やボランティアの皆さんが訪れる賑やかな行事ですが、今回は新型コロナ感染予防のため、内輪で実施。カラオケ大会では、それぞれの個性ある歌いっぷりに対して、審査委員長の塚本先生(笑いヨガ講師)に大いに褒めていただきました。



★恒例になった定期的散歩

利用者の方々と職員とが一緒に建物周辺を散歩。すたすとマイペースで歩く人、歩行器を使う人、車椅子の人等、いろいろ。鳥の声を聞き、季節ごとの花を愛でながらの散歩です。秋から冬にかけては、富士山の山頂がくっきりと顔を出してくれます。



★「最新ナースコールシステム」設置完了

長年の酷使で相当疲れはてた旧ナースコールシステム。夜は支援室と宿直室だけしかコールが届かず、夜、支援員が広い館内を見守りしている時は即座に回答することが難しかったのですが、今回の最新システムでは、各部署にPHSも備えられ、利用者の人からコールがあれば素早い対応が可能に。職員の一入夜勤の不安も少しは緩和されます。

ワークセンターなのほな

★農作業の開始

コロナ感染症拡大の影響を受け、仕事量が減少したのを機に、オリーブ園の世話人、加藤さんの畑で農作業のお手伝いをさせて頂くことになりました。夏は汗だくになりながら草取りや石拾い、冬は寒さに耐えながらネギの出荷作業を行いました。加藤さんからの褒めめは、そして収穫時の達成感が何よりの励みとなり、受託作業では得られない良い経験となりました。



★スプーン作りの体験(外出)



コロナにより、遠出の外出は無理になりましたが、皆さんの楽しみに応えて、9月25日「森町体験の里、アクティ森」へ外出。ポリマークレイを使って、各々個性豊かなスプーンを作ったり、散策を楽しんだりしました。感染予防のため、カラオケはできず、途中で雨が降ってしまうなど、大満足とはいきませんでした。ガムのようなカレーをスコップ型のスプーンで食し、家族にお土産を購入など、楽しい1日でした。

★1月27日、中部地域局危機管理課の協力で起震車体験

ワークセンターコスモスと合同の体験。起震車に乗り、震度5弱～6弱の地震を体験。初めは怖いからやりたくないと言っていたご利用者も、見ているうちに「やってみようかな」という気持ちに変わり、全身体験できました。椅子に座ったまま机の下に隠れてしまう方もおり、訓練の成果がしっかり身についていることもわかりました。防災のDVDを視聴し、クイズを交えながら、楽しく防災について学ぶことが出来る良い機会でした。



コミュニティセンターぶどうの木

★『ほっとサロン』教室でマスク作りに挑戦

各自が思い思いの布地を持ち寄り、型紙を利用して線を引き、切ったりして作成。皆さん縫物の経験があり、一通り説明すれば難なく縫うことが出来、さすがです。出来上がったマスクはさっそく着用。次の利用日にも、そのマスクを着けて来られ、一味違うマイマスク光景になりました。



★8月から食事付きデイサービス開始



献立や料理方法、栄養価、食器、経費など栄養士にも相談しながら検討して進めました。一人ひとりの好みも知らないままのスタートでしたが、味付けも家庭的だったせいも、喜んで完食して下さいました。「孤食」の人や独居の人が多く来ていらっしゃるの、一堂に会して、皆と食事することがこんなにも楽しいことを実感。安らかな「場」の大切さを実感しました。



★地域の居場所「いっぷく」「いっほの会」

ボランティアの方々が開催していた、地域での居場所「行ってみてGO」の活動が、住民主体の活動「いっぷく」「いっほの会」に移行。それまで、ぶどうの木(わたしたち)が活動呼びかけ、人を集めて実施していましたが、皆さんから「・・・をやりたい」などの意見があがり、それを機に、皆さん自身で考え行動するよう、働きかけています。



ライフサポート さふらん

★災害時ご利用者宅ハザードマップ作成



自然災害が発生した場合に備え、ご利用者宅の位置をハザードマップ上に記し、災害時のリスクを共有しました。

★静岡県発行のホームヘルパー求人誌へ協力

「若手ヘルパーとして活躍中」ということで取材を受けました。在宅生活を支える人材を確保するために、これからもヘルパーの魅力を発信しつづけます。



やまばと希望寮

★運動会

毎年恒例の運動会、今年はコロナ対策で希望寮関係者のみで実施。パン食い競争よろしく「お菓子争奪戦」、ジュース早飲み対決では、我先にと頑張る姿が見られました。歳はとれども「花より団子」。



★やまばと希望寮の最大にして、最も重きを置くイベント、クリスマス!

榛原教会から始まった「やまばと学園」、クリスマスは大切にしていきたいです。今回コロナウイルス対策で縮小+省略の開催となりましたが、保護者会からのプレゼントは、なによりの楽しみ。12月早々より希望寮内ではクリスマスソングが鳴り始め、ご利用者は、「プレゼント何かな?」と期待し始めるのです。



★節分

巷では「鬼滅の刃」が大流行。職員扮する赤鬼青鬼に、豆の代わりにカラーボールを投げつけ「鬼退治」をしました。本気で怖がる方、元気に鬼退治する方、いろいろでしたが、みんな「お豆」の代わりにケーキが大好きでした。



★誕生日会

誕生日を迎えたご利用者だけが特別扱いされ、御満悦となるイベント。羨む方もいますが、誕生日のケーキなどは、皆で堪能できます。



★職員の結婚祝いパーティー

職員の送迎会が結婚式へと変貌しました。みんな、幸せな気持ちになりました。

デイサービスセンター すずらん

★8月に10周年のお祝い

本当なら盛大に行うのですが、今回は、ご利用者と職員でこじんまりとお祝い。ご利用者やご家族の皆様をはじめ、多くの方々に支えられて今があります。本当にありがとうございます。

★地域貢献活動

地域貢献活動として、坂部ふれあいサロン様と交流。デイサービスセンター「すずらん」の紹介をしたり、生徒さんとゲームをしました。(少しはすずらんの知名度も上がったかな?)



★男性職員が入職

すずらんに初めて男性職員が入職。今までになく、ご利用者様の目が輝いています。女性職員も頑張っているのですが、やっぱり男性職員には勝てません、ちょっとやきもちです。



★感染症予防に尽くした一年

感染症予防のため、行事や外出を中止しましたが、しかし、感染症とは何かを改めて勉強するきっかけにもなりました。手洗いをまじめに行った1年でした。

聖ルカホーム

★「窓越し面会」や「Web面会」を実施

感染予防のため、ご家族との直接面会を中止し、「窓越し面会」と「Web面会」を開始しました。課題も多いですが、まずは皆さんの笑顔が見れてホッとしています。



★7月1日、出張洋品店でお買い物

コロナ禍で外出もままならない中、地元の洋品店様のご協力により、ロビーで洋服店を開店。たくさん買い物をし、気分転換になりました。



★衛生用品(マスク・消毒液・プラスチックグローブなど)の確保に苦勞

新型コロナウイルス感染予防のため、誰もが衛生用品購入に必死になり、マスクなどの品物が入手困難になりました。数量限定販売のため、職員が各店舗を回り、一回一箱ずつ買って収集。ご利用者のご家族も心配してマスクなどをご寄付くださいました。

デイサービスセンター 真菜

★4月1日、開所21周年記念のお祝い

真菜の開所記念日、扇松堂さんと和菓子の実演をしていただき、その場で味わいました。食べるのが勿体ないくらい素敵な練り切りでした。



★6月、沼津魚河岸鮭の来訪

コロナ禍ではありましたが、ご利用者が見守る中、さすが寿司職人!!あれよあれよという間に35人前を握ってくれました。大きなネタがのったお寿司を皆さん美味しそうにパクリ。お寿司づくりのボランティア活動に感謝です。



★牧之原市の「介護者のつどい」の委託

9月はオリーブ摘みを、12月にはケーキ作りをしました。どちらもとても好評で、皆さん普段の介護疲れを癒され、リフレッシュされた様子でした。



★コーヒー豆の焙煎始めました!

ご利用者さんの提案で、生豆を購入してカセットコンロとフライパンで焙煎を始めました。浅煎りや深煎り、ご自分で研究しながら行っています。淹れ立てのコーヒーは格別です。



★くもん学習療法について発表(オンライン)

認知症予防にくもん学習療法を取り入れ、13年間取り組んでいます。今回は7年間くもん学習をし、介護度を維持し続けているTさんのことをご紹介します。くもん学習療法を通して、気づく力、寄り添い続ける大切さを学び、継続は力なり!を実感しています。

★11月、当施設で感染症研修

オーケーユーの奥氏を講師にお招きし、感染症研修を実施。新型コロナウイルス感染症が県内でも拡大している時期でしたので、皆さん真剣にガウンテクニックの実習に取り組みました。



垂穂寮

★コロナ禍の中のクリスマス

コロナ禍ではありましたが、12月25日に工夫して開催。美味しい食事を食べたり、職員有志や新人職員による出し物を見たり、一緒に踊ったりと、楽しめました。笑顔で一杯になる集いでした。



★新型コロナウイルス感染対策について

COVID19対策マニュアルを作成し、PPE着脱動画を各部門に配布、着脱練習を行いました。好評でした。年度末の3月26日には、県のモデル事業所として静岡県病院協会のご協力により、医師や感染症看護師の訪問点検があり、日頃の取組みに高い評価を頂きました。



★3月29日、青空食堂で「お花見弁当」

桜が満開の中、中庭でご利用者にお花見弁当を提供。テーブルや椅子を食堂から持ち出してセッティングし、お弁当は調理員が手作り。とても暖かく、庭の桜も満開の中でのお弁当は、コロナで外出出来ない利用者さんにとっては季節を感じる楽しいひと時だったかと思います。



★感染予防による制限が続いた一年でした

新型コロナウイルス感染予防のため、短期入所や日中一時支援の受け入れを制限、繕い物の奉仕やフルーツ演奏、遊びりテーション等、ボランティアの受け入れも制限。保護者様の面会等も制限。制約の多い1年でした。

